

「資質・能力の明確化と教科等横断的な教育課程の編成」

【1年目の取組】

幌延町立幌延中学校 学級数5 (校長 佐藤 建)

1 自校の課題

生徒の実態として英語の学習に困り感をもっている生徒が多く、授業に集中することが難しい生徒や協働的な学びが極端に苦手な学年がある。また、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果から、必要な情報を選択したり活用したりして論理的に説明することが苦手な生徒が多いことが明らかとなった。

また、令和10年度に幌延小学校と本校を合併し、義務教育学校を開校することが決定し、今後の取組について両校で検討する中、互いの学校の総合的な学習の時間の取組が共有されておらず、内容が重複していることなどが明らかとなった。義務教育学校の開校に向けた取組の軸として、育成を目指す資質・能力の明確化と小中9年間のつながりを意識した教育課程の編成に取り組む必要がある。

2 課題解決に向けた役職ごとの取組

(1) 校長の取組

本事業の取組と義務教育学校の開校に向けた、幌延町教育委員会及び幌延小学校と組織する「義務教育学校開校準備委員会」の活動が連動した取組になるよう、組織体制の構築や2年間の計画を作成し、小中9年間のつながりを意識した教育課程の編成に取り組めるようにした。

(2) 教頭の取組

学校力向上に関する総合実践事業、義務教育学校開校準備委員会、幌延町教育研究所英語推進委員会、小中連携等、各組織の取組を整理し、それぞれの取組が円滑に推進されるよう働きかけを行った。

義務教育学校開校準備委員会においては、全教職員を対象に、今後の校舎移転に関する情報共有を行うとともに、小・中学校の教員間で、児童生徒が同じ校舎で学校生活を送る際に想定される不都合や不安について共有し、対応について検討を行った。これらの取組により、児童生徒が同じ校舎で学校生活を送ることを見据えたビジョンの共有を図り、取組を推進することができた。

幌延町教育研究所英語推進委員会においては、教育課程の編成について有識者から専門的知見を得る機会を設定するよう働きかけ、小中が連携した教育課程の編成に向けた取組を推進した。

(3) マネジメント推進リーダーの取組

英語教育推進委員会での連携を軸に、教育課程の編成に関する研修会の企画運営や小中9年間のつながりを意識した英語の教育課程の編成に取り組んだ。

研修での学びを生かし、幌延町の英語教育のグランドデザインの作成や、小中で連携した外国語科及び英語科で取扱う英語表現の系統性や指導内容一覧等を作成するとともに、取組を全教職員に情報共有したことにより、各教科のグランドデザインづくりや教科の系統性についての確認につなげることができた。

3 課題解決に向けた1年目の取組内容

(1) 取組の具体

義務教育学校の開校準備を進める中で、明らかとなった教育課程編成に関わる課題を解消することを重点とした。まず、本事業の取組と義務教育学校開校の諸準備を連携できるよう、校内における役割を分担した。

また、「教科等横断的な教育課程の編成」に重点を置き、義務教育学校開校までに教育課程が編成できるように、次のように計画した。

令和7年度	これまでの英語科での小中連携を生かした、英語科の教育課程の編成
令和8年度	総合的な学習の時間の教育課程の編成
令和9年度	各教科の教育課程の編成
令和10年度	義務教育学校の開校・教育課程の実施

本事業の2年間で、教育課程編成のノウハウなどをマネジメント推進リーダーが身に付け、教職員に還元することで、3年後には各教科の編成にそれぞれが着手できる計画を作成し、取組を進めている。

英語科における課題解決のため、英語科を重点に教育課程の編成を行うとともに、授業改善に取り組んだ。今年度は小学校第5・6学年の外国語科で乗り入れ授業を実施し、小学校段階からより専門的な指導を進めた。

自校では全学年の英語科の授業をTTによる指導体制で実施し、オールイングリッシュの授業を展開する

とともに、町のALTを活用し、ネイティブ・イングリッシュの授業づくりを進めた。

(2) 取組の成果

これまでの小中連携では、児童生徒の実態等、生徒指導の側面で交流を行っていたが、義務教育学校の開校準備に教職員が参画することにより、資質・能力を育成するための教育課程の編成を視点に取組を進めることができた。

義務教育学校の先進校視察では、マネジメント推進リーダーを中心とした複数の教員を派遣し、3校の視察を実施し、教育課程の編成のポイントや小中連携の実際を知ることができた。

アドバイザーである渋谷教授にお越しいただいた際は、教科等横断的な教育課程の編成について御助言をいただき、本事業の取組の重点について改めて整理することができた。

また、これまでに義務教育学校の開校にかかわったことのある2名の講師から、義務教育学校開校に係る具体について講話をいただく機会を設定することができ、教育課程の編成にかかわって有益な情報をいただいた。

英語科の教育課程編成については、研修でアドバイスされた内容を加味し、幌延町の英語教育に関わるグラウンドデザインを作成し、本町の児童生徒が身に付ける資質・能力について整理するとともに、Can-do リストの整理、9年間を見通した英語表現にかかわる系統性の整理、教育課程編成を実施することができた。

授業改善においては、初任段階教員とマネジメント推進リーダーでTT指導を行うことにより、授業づくりのポイントを踏まえた授業改善が進められた。授業評価アンケートでは、「英語の授業は楽しい」の項目で、10段階評価の5.7から7.3、「英語の授業内容がよく分かる」の項目で、10段階評価の6.0から6.9へ上昇し、取組の効果が見られた。

(3) 2年目に向けた課題

マネジメント推進リーダーを中心に、英語科の教育課程の編成で明確になった課題等を共有するとともに、小中9年間で育成を目指す資質・能力を明確にした総合的な学習の時間の教育課程の編成・実施に取り組む。

今年度の本事業に係るアンケートでは、「コミュニティ・スクールとの連動性」「マネジメント推進リーダーの役割」が教職員にあまり理解されていないことなどが課題として明らかとなった。今年度は英語科に焦点化し、全教職員に取組の見えづらさがあったことから、改善に向けて、教頭やマネジメント推進リーダーが、取組内容について教職員への情報共有を積極的に行い、全教職員がチームとなって取り組むことが必要である。

義務教育学校の開校準備では、学校教育目標や目指す子ども像などを設定するとともに、本事業の担当と準備委員会の担当が情報共有し、学年ごとに育成を目指す資質・能力を踏まえ、総合的な学習の時間を中核とした各学年の学習指導を俯瞰する単元配列表等の指導計画の作成を目指す。また、小学校の指導計画等の内容を検討し、義務教育学校で取り組む内容を作成する予定である。

「資質・能力の明確化と教科等横断的な教育課程の編成」

【1年目の取組】

紋別市立紋別中学校 学級数8 (校長 佐藤 大)

1 自校の課題

本校の重点テーマである教科等横断的な教育課程の編成を推進するためには、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、生徒の主体性を引き出す授業の実現が不可欠である。そこで、「説明」「表現」「根拠をもった思考」の三点を重点事項として授業改善に取り組むとともに、教科等横断的な視点に立った教育課程の編成を進めた。

2 課題解決に向けた役職ごとの取組

(1) 校長の取組

学校経営方針における重点教育目標について、教職員・生徒への浸透を図るためにキーワード化した。また、学校教育目標の達成を目指し、マネジメント推進会議を定期的で開催し、改善点を明確にするとともに、具体的な改善策を検討し、組織的に対応するよう指示した。

(2) 教頭・主幹教諭の取組

学校教育目標の達成のために具体的な取組を検討し、分掌部長や学年主任、教科担任に具体的な指導助言を行った。また、「情報共有」や「役割の明確化」と「学年・分掌間の連携強化」を図ることで、組織的・機動的なマネジメント体制を構築し、円滑な学校経営を実現した。

(3) マネジメント推進リーダーの取組

学校教育目標の達成と学校課題の解決に向け、マネジメント推進会議を運営した。マネジメント推進リーダーから課題分析に基づいた具体的な改善策を提示することで、各教員が日々の授業に迅速に活用できる体制を整えた。また、教科等横断的な視点を取り入れた単元の指導計画を作成し、師範授業を実施するなど計画の実装に努めた。

3 課題解決に向けた1年目の取組内容

(1) 取組の具体

- ・マネジメント推進リーダーを中心とした校長、教頭、主幹教諭、教務主任、事務職員、生徒指導主事等が参加する学校教育目標達成のための課題について協議するマネジメント推進会議を定期的実施
- ・事務職員をリーダーとした教育DXの推進
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指し、学び合い、複線型授業及び単元内自由進度学習を取り入れた授業改善
- ・北海道教育大学大学院渋谷教授を2度招聘し、教科等横断的な視点による教育課程の編成に向けた授業実践、理論研修の実施



【複線型の授業実践】

(2) 取組の成果

- ・マネジメント推進会議を定期的で開催し、本事業に係る取組の方向性を全教職員と共有したことにより、学校力向上に関する総合実践事業アンケート「学校教育目標の実現に向けた育成を目指す資質・能力が明確化されている」の項目において、肯定的な回答をした教員の割合が100%になった。
- ・各教科において授業改善を図ったことにより、生徒アンケート「考えを深め、新たな視点を得た」の項目において、肯定的な回答をした生徒の割合が1回目：82.7%から2回目：84.0%に増加、「課題解決に向けて自分で考え、取り組んだ」の項目において、肯定的な回答をした生徒の割合が1回目 83.0%から2回目：83.3%に微増となるなど、生徒は主体的に学習に取り組むようになった。
- ・スケジュール管理や情報共有をクラウド上で行うなど、事務職員を中心とした教育DXを推進したことにより、その効果について教職員が実感するとともに、さらなる工夫を講じようとする良好な学校文化が創出された。

(3) 2年目に向けた課題

- ・各教科において、教科等横断的な視点から教育の内容等を見直し、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることができるよう、単元の指導計画を作成する。
- ・各教科の目標及び内容の系統性を踏まえた授業づくりに向けた話し合いなど、小中一貫の取組を推進する。
- ・生徒アンケート「どのような力が付くか見通しをもって授業を受けている」の項目において、肯定的な回答をした生徒が65.2%であったことから、単元の学習計画を教師と生徒との間で共有することにより、生徒が単元で身に付ける資質・能力を自覚し、主体的に学ぶことができるよう授業改善を推進する。

資質・能力の明確化と教科等横断的な教育課程の編成

【1年目の取組】

別海町立別海中央小学校 学級数22 (校長 根本 渉)

1 自校の課題

学校力向上に関する総合実践事業の指定を受け13年目である本校は、校長の学校経営方針の下、全教職員で協働し対話・議論による「めざす子ども像」の設定及び教科等横断的な教育課程の編成を行ってきた。しかし、既存の教育課程には、教科等横断的な視点や育てたい資質・能力とのつながりの視点、地域や幼保小中高との一貫した視点等が不足していたことから、これまでの教育活動を基盤とし、「めざす子ども像」の具現に向け、「育てたい資質・能力を明確にした教科等横断的な教育課程の編成」を更に推進していく必要がある。



【校長の学校グランドデザイン提示】

2 課題解決に向けた役職ごとの取組

(1) 校長の取組

全教職員等の対話・議論により設定した「めざす子ども像」を学校グランドデザインに明記し、地域（中学校区学校運営協議会）・保護者（PTA総会）・教職員（年度当初会議）と共有するとともに、「育てたい資質・能力を明確にした教科等横断的な教育課程の編成」の方向性を示した。また、「めざす子ども像」の具現に向けた各取組をブラッシュアップするために、地域や保護者等の関係各者との対話・議論・熟議を通して、情報共有・検討を行い、本事業の目標到達に向けた施策の実施・評価・改善を行った。

(2) 教頭・主幹教諭の取組

「育てたい資質・能力を明確にした教科等横断的な教育課程の編成」の体制や段取りを整備するため、中学校区学校運営協議会の運営や家庭・地域との連携・協働の架け橋役を担った。また、各校種の教頭・副園長・校務分掌担当者等と連携し、幼保小中高の指導内容等の系統性の確認、学校行事や地域資源の掘り起こし・整理等を行った。



【めざす子ども像会議】

(3) マネジメント推進リーダーの取組

「育てたい資質・能力を明確にした教科等横断的な教育課程の編成」を推進するため、全教職員で協働し対話・議論する「めざす子ども像会議」、「カリキュラム・マネジメント会議」及び「若手教員の育成（メンター研修等）」の計画・運営・評価・改善を行った。

3 課題解決に向けた1年目の取組内容

(1) 取組の具体

- ①年度当初会議における「学校グランドデザイン」に基づく学校経営方針の説明（校長）、「教科等横断的な教育課程の編成」に向けた「単元一覧配列表」作成の意義や取組内容の明確化及び教職員との共有（マネジメント推進リーダー）
- ②全教職員で協働し対話・議論する「めざす子ども像会議」の実施及び本事業の目標達成に向けた共通理解と共通行動
- ③中学校区学校運営協議会CSコーディネーター部会における、地域及び各校種との連携、地域資源の掘り起こしや整理の実施及び小中一貫した系統的な指導計画の作成
- ④学校として育成を目指す資質・能力と総合的な学習の時間の関係や、単元一覧配列表について検証・改善する「カリキュラム・マネジメント会議」の学期ごとの実施及び外部人材を活用した評価・改善サイクルの実施



【単元一覧配列表】

(2) 取組の成果

年度当初会議における校長の学校経営方針の説明及びマネジメント推進リーダーの「教科等横断的な教育課程編成」の共通認識の土台づくり、定期的な「カリキュラム・マネジメント会議」等の開催により、本事業アンケート「学校教育目標の実現に向けて育成を目指す資質・能力が明確化されている」及び「学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた教科等横断的な教育課程を編成・実施されている」において、肯定的な回答が100%となるほか、「育てたい資質・能力を明確にした教科等横断的な教育課程の編成」を意識した日々の授業づくりを行う姿が全教職員に見られた。

(3) 2年目に向けた課題

本事業アンケート「小中9年間を見通した教育課程が編成・実施されている」において、肯定的な回答が87.1%に留まっていることから、幼保小中高一貫教育の視点を引き続きもち、「教科等横断的な教育課程の編成・実施」に取り組む必要がある。また、「教科等横断的な教育課程の編成」によって明らかにした資質・能力のつながりが単元や一単位時間の授業レベルでどのように生かされているのかをさらに検証していく必要がある。